



# エコ計画



**井上 綱隆 氏**  
エコ計画  
代表取締役社長

井上 綱隆 (いのうえ つなたか) 氏：1986年エコ計画入社、93年取締役、本社環境管理部取締役、経営企画室担当常務取締役を経て、2006年より現職

写真=エコ計画提供

## 環境と社会の両面で地域に貢献

埼玉県とサーキュラーエコノミーで連携し、廃棄物を肥料にして資源循環を図る他、啓発教育に携わる。旅館運営を通じた地域貢献や、社会課題のソリューションを提供するコンサルティング業も手掛ける。

——産業廃棄物の処理やリサイクルを本業とする企業として、事業の現状と新しい取り組みについて教えてください。

**井上** 創業当初は公害防止機器の製造販売をはじめ、廃棄物の中間処理や最終処分場を運営していました。現在は、これらの事業に加えて廃棄物の処理技術及びリサイクル技術の開発設計、有価物のリサイクルやリ

ユース、リサイクル品の保管管理など、総合リサイクル事業を軸に捉えています。

2025年に55周年を迎え、新たにリサイクル施設の許可を取得し、再資源化施設の本稼働に向けた準備を進めています。昨今のリチウムイオンバッテリーによる火災リスクがますます高まることを踏まえて、人海戦術による危険物の分別対応から危

険物を自動検知する設備導入を検討し、安全かつ安定した廃棄物の受け入れや適正処理の体制を強化しています。

——肥料化施設を新設し、「菌体リン酸肥料」の製造を開始します。この事業の狙いは何ですか。

**井上** 肥料化施設の呼称をERS（エコサイクルシステム）として、25年には計画通り埼玉県内に施設を建設

### 企業の環境対応をワンストップでサポートするエコ計画の環境ソリューション事業



総合的な廃棄物ソリューションを提供する相談窓口。テレビCMを放送し、サービス強化を打ち出している。「環境の窓口」はエコ計画ホールディングスの登録商標  
出所:エコ計画

し、一般廃棄物、産業廃棄物の業務許可を取得しました。25年末から試運転を開始し現在は運転操作を習得中です。

菌体リン酸肥料の登録は、農林水産省より「大臣確認書」を受領し、2月9日に埼玉県で肥料登録が完了しました。菌体リン酸肥料は微生物に含まれるリン（リン酸）を利用した肥料で、農水省では輸入に頼らない肥料原料としての活用を促進しています。汚泥など国内資源の有効活用と肥料の安定生産への寄与も目的としています。

ERSは、当社の焼却施設の余剰蒸気を活用してサイクロンドライヤーで間接乾燥する仕組みです。投入物を短時間煮沸することで細胞が破壊され、嫌気性発酵を起こしにくいため、比較的早く作物を植えることが可能になるとともに、汚泥特有の臭気も抑制できるので、取り扱う側にも配慮された肥料となっています。26年4月に本格的な稼働を目標と

し、肥料原料として販路を広く構築して国内資源の有効活用を進めていく計画です。

### 協業で地域のエネルギー活用

——産廃処理、リサイクル分野での事業計画や設備投資の予定を教えてください。

**井上** 埼玉県が運用する「彩の国資源循環工場」（埼玉県大里郡）で事業展開する寄居エコスペースでは、様々な廃棄物を適正に処理する上で、前処理としてせん断式二軸破砕機を使用してきました。設備の老朽化もあり、26年はより幅広い処理が可能となる、せん断式四軸破砕機の導入を予定しています。

米国製で破砕能力が高く、国内では初めての導入です。熱感知機能を各所に備え付け、火災検知後は速やかに消火できるよう安全を担保しています。

その他、埼玉県と協議を進め埼玉県と寄居町、埼玉県と小川町それぞれ

れで、エネルギーを活用したレジリエンス向上に関する連携協定を結ぶ予定です。

26年3月に協定締結式をする予定となっており、大規模災害が発生した場合に埼玉県が運営する「彩の国資源循環工場」の各企業が有するエネルギーを地域に供給すること、そして地域のエネルギーの有効活用について協力し、取り組むことを目的とした内容です。

埼玉県が推進するサーキュラーエコノミー（循環型経済）及び地域貢献の取り組みには、様々な形で連携、協力していきたいと考えています。

——23年8月に「廃棄物の窓口」を設置し、商標を登録しました。

**井上** お客様の関心は、従来の廃棄コストの削減から、リサイクルを含めた最適な処分方法の構築へと確実に変化しています。お客様の多様なニーズや悩みに寄り添い、的確な提案ができるよう、コンサルティング機能を強化しています。



当社の強みである廃棄物処分に限らず、公害防止機器をはじめとする周辺機器の更新、グループ会社の「計量証明」などの分析業務と、様々な環境保全にまつわるニーズに応えられるよう、「環境の窓口」として25年11月に商標登録を行いました。

環境ソリューション事業を確立し、お客様からファーストコンタクトをいただけるよう注力しています。200以上の協力会社のネットワークを生かし、中間マージンを抑えたコスト提案が、環境の窓口一本で完結できるようにしました。

「エコ計画ラボ」は起業支援事業

で新しく始めた事業ですが、これから成長していく社会貢献的な事業と位置付けています。森林保全事業もこの業界では珍しく、CO<sub>2</sub>クレジットの吸収量の評価など、社会貢献としての事業になると考えています。

**強みを生かし社会課題解決へ**

——24年5月にグループ会社「ワークスコープ&青空」を設立し、人材派遣事業を開始しました。

井上 お客様と接するなかで、人材不足を耳にする機会が多くなり、「環境の窓口」のサービスの1つとして、24年5月より人材派遣事業を始

めました。派遣先はリサイクル業が全体の8割を占めますが、東京都心に派遣事業の本部があるため、アパレル業界のスタッフ派遣も手掛けています。月間の損益分岐点となる売上額に達したので、黒字化を視野に入れていきます。

——地域での環境活動を紹介してください。

25年10月、埼玉県・寄居町・浦和レッズ・エコ計画が連携して「親子サッカー教室×サーキュラーエコノミーin寄居」と題するイベントを開催しました。

小学生を低学年と高学年の2班に



**■ 群馬県の温泉旅館を通じ伝統文化の継承と観光資源の最大化を図る**

**旅籠(はたご)プロジェクト テナント出店エリアについて**

【出店エリア】 長屋門、まくらぎ広場、町人長屋、星見テラス、蔵戸、木村家

【出店エリアイメージ】 長屋門、まくらぎ広場、町人長屋、木村家、星見テラス、蔵戸

※写真は旅館運営時のもの

2026年の再開後は、地域内外の人が関わって出店やイベントができる開放スペースを設ける

出所:エコ計画

**社会のインフラとして責任を果たす**

分け、親を含めた約80人が参加し、サッカー教室と当社のリサイクル施設の見学をしました。環境とスポーツの両面から子供たちが心身共に豊かさを育み、環境に配慮した行動や意識向上につなげるのが目的です。環境についても真剣に考える場を設けることができ、有意義な催しとなりました。今後も積極的に参画したいと考えています。

——経営する群馬県「かやぶきの郷 薬師温泉 旅籠」の状況を教えてください。

井上 「かやぶきの郷 薬師温泉 旅籠」は古き良き日本文化を伝える温泉旅館として、1999年に開業しま

した。2024年9月からメンテナンスや設備の更新のため一時休館していましたが、26年内にオープンする予定です。

再開後は、新たに「旅籠プロジェクト」を立ち上げます。テナント経

営者の出店を募り、旅籠と称する施設を出店者に開放することで、宿泊観光客に向けて飲食や物販、イベントサービスを提供してもらいます。現在50以上の応募があり、15~20のテナントが出店する予定です。テ

**■ 地域の小学生を対象に環境の意識を高めるイベントを開催**



埼玉県寄居町の小学生を対象にサッカー教室と同時にサーキュラーエコノミーを学ぶ授業(左)を行った他、エコ計画寄居エコスペースの見学会を実施した(右) 出所:エコ計画

ナントの半分以上が地元群馬県の方で、地域貢献の側面もあると考えます。旅籠という歴史的建築物の保存と、観光資源の活用を両立させ、地元の経営者が新たな挑戦の場とできるよう持続可能な地域モデルの実現を目指しています。

**格付けで企業の信用高める**

——事業の中で、ESGやSDGsをどのように位置付けていますか。

井上 創業当時より循環型社会の実現と地域社会への貢献を経営理念として掲げており、ESGやSDGsとの親和性が高いと考えています。

当社は非上場企業のため、企業活動とESGの関連性について実感がない従業員も多く、参画意識を高めるため、格付け機関、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスによる、中小企業を対象とした日本SME格付けを受けています。

25年8月にトリプルエー (aaa) の評価を受けたことで、高付加価値サ

ビスの提供と、高収益を実現していることを内外に示すことができ、信頼性の向上に寄与していると考えています。

企業のサステナビリティパフォーマンスを多面的、客観的に評価するエコパディス (EcoVadis) のサステナビリティ評価も、2年目となる24年にコミットメントバッジを取得しました。

ISO取得の長年にわたる取り組みや、森林の認証など環境、人権、コンプライアンスへの対応により、25年もさらに評価点が向上したことから、次の目標として、ブロンズメダルの取得も目指します。

今後はESGの取り組みをさらに見える化し、企業経営の強化、品質向上につなげることで、「稼ぐ力」の強化と価値の創出に貢献するESGの取り組みを目指していきます。

——今後、どのような企業を目指していきますか。

井上 これまで積み上げてきた産廃

処理のノウハウを基礎に、これからも収集運搬や最終処分の安全操業を完遂し、社会のインフラとして責任を果たしていきたいと考えています。リサイクルに対する顧客の意識が上がる中、変化に迅速に対応するためには現場力の強化と生産性の向上が不可欠です。

CO<sub>2</sub>排出量の抑制や、環境負荷低減を考慮した設備投資を継続し、お客様の環境課題に対して提案を行い、最適な解決策をデザインする企業を目指します。自社のみならず、同業他社とのネットワークを駆使したコンサルティングをさらに強化し、お客様のあらゆる課題にスピーディーに対応したいと思います。

事業の鍵を握るのは現場で働く社員一人ひとりの力です。自らの仕事に誇りを持てる環境を整え、55年の歴史に裏打ちされた安心感と、時代を切り開く革新性の両輪で、社会と環境への貢献を果たしていきたいと考えています。